

宿縁

九月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派 **中原寺**

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

自分の足で歩くことの 大切さを知る



八月末を第一回として「心を整える会」がお寺の新しい行事として始まります。

まだ朝の静けさが残る十時から本堂で読経、座禅(静坐)、写経といった体験を通して日頃の疲れた心を整えようとする空間です。考えてみると今の時代を生きる私たちは、朝から晩まで、いや寝ていても頭が休まらない日々を追いまくられています。

インターネットやSNSなどの普及による情報過多社会といわれる今日、誰もが落ち着いて生活をするのができなくなりまし

た。社会生活を営む私たちは、たしかにどう生活すべきかの種々の情報は大切ですが、人間は情報を与えられ過ぎると何もできなくなると思います。

こうしたことから考えると、情報を知ることによる利点より次のようなデメリット(欠点)を心がけていなければなりません。

- ① 本人の同意がない個人の情報が洩れる
- ② いじめや嫌がらせを受ける危険性
- ③ 情報依存症になる
- ④ 情報の拡散が早いので誤解や混乱が生じる
- ⑤ 精神的ストレスを生む

そこで、情報化社会の時代に乗り遅れないようにと思うより、私たちにとって大切なのは生きることの真の意味を自ら見出す道を発見すべきではないでしょうか。それが仏道です。仏道は世間のとめない不安とストレスから解放される世界です。

親鸞聖人の生きられた時代はおよそ八百年前です。その頃から見ると私たちの時代は生きやすくなったのか、生きにくくなったのか?を考えてみましょう。

便利さや物の豊かさ等からの幸福度の比較からではありません。

人として生まれ生きる意味を教えてください。親鸞聖人のご生涯を思うとき、比叡山の御年九歳から二十九歳までの二十年間の

ご修行はとても大きな意味を持っているのだと思います。ご自身はこの時期のことには少しも触れておられません。しかし妻の恵信尼さまの遺されたお手紙によると、

『聖人(親鸞)は比叡山を下りて六角堂に百日間こもり、来世の救いを求めて祈っておられたところ、九十五日目の明け方に、夢の中に聖徳太子が現れてお言葉をお示しく下さいました。それで、すぐに六角堂を出て、来世に救われる教えを求め法然上人にお会いになりました。そこで、六角堂にこもったように、また百日間、雨の降る日も晴れた日も、どんな風の強い日もお通いになったのです。そして、来世の救いについては、善人にも悪人にも同じように、迷いの世界を離れることのできる道を、ただひとすじに仰せになっていた上人のお言葉を聞き、しっかりと受けとめられました。ですから、「法然上人のいらっしやる所には、人が何といおうと、たとえ地獄に落ちるに違いないといおうとも、わたしはこれまで何度も生まれ変わり死に変わりして迷いを続けてきた身であるから、どこへでもついて行きます」と、人がいろいろといったときも仰せになっていました。』(「恵信尼文書」現代語訳)

と、親鸞さまのご臨終を看取られた末娘の覚信尼さまへのお手紙が発見されています。

比叡山は標高848mで今から千二百年前の延暦二十五年に伝教大師最澄によって開かれた天台宗のお寺です。人里から遠く離れたこの山は当時から仏教のメッカとして仏道を学び修行して悟りを開こうとする出家者の聖なる場でした。ここに親鸞聖人は二

十年間、常行三昧堂の堂僧としてひたすら止観行に励まれたようです。

私は二度(真冬と秋)、親鸞さまの足跡にふれたいと比叡山を訪れました。今は道が切り開かれ観光化されていますが、さすがこの常行三昧堂付近の真冬の佇まいは深閑として凍てつく厳しさを身に感じるものでした。

親鸞さまはここで下界の世界(世間の情報)から遮断された二十年間を過ごされたのです。御仏を仰ぎ自らを省みてひたすら仏道への修行に励まれたことでしょうか。

しかしまったくその間情報が途絶えていたわけではないような気がします。

やがて生涯の師と仰ぐ法然上人とは四十歳の違いがあります。かつて法然上人もここ比叡山で出家し仏教を学びますが下山し、四十三歳のとき、「阿弥陀仏を信じ専ら念仏を唱えれば、善人も悪人も平等に浄土に往生できる」との教えに確信を持ち、東山吉水の草庵でその教えを説く法座には多くの民衆が訪れている、という情報は親鸞さまの耳に入っていたのではないかと思います。

そのような状況のなかにある親鸞聖人の姿は『修行すればするほど、自分の煩惱の火はますます燃えるばかり、どれだけ心の中にきれいな月を見ようと思っても煩惱の雲がその月の前に立ちばだかつて、私の心をおびやかす』(「嘆徳文」現代語訳)とおっしゃっています。

ここで自分なりになるのでしょうか? 情報は自分でしっかりと確かめることです。情報はいろいろなことを伝えてくれますが、あくまで自分の責任において確かめることを教えてください。

【寺灯雑記】

○孟蘭盆会並びに戦没者追悼法要を厳修
8/11

年々耐え難いほどの暑さが増す中、今年も聞法会館において孟蘭盆会法要並びに全戦没者追悼法要が勤められました。

この度は読経に入る前に本願寺月刊誌『大乘』8月号に載っていたアーカイブス法話「子や孫に伝えたい話―被害と加害と：平和も知らずに死んだ姉―」を前住職が朗読しました。

今年が日本が敗戦して七十九年が経ち、かつて国の内外で多くの戦死者が出た戦争の悲惨さを知らない世代の人口が八割を超えています。二度とあのむごい戦争を起こしてはならないという思いからの「朗読」は、聞かれた方々の心にどう響いたでしょうか。

その後、お釈迦さまが説かれた真実のことば「重誓偈」「阿弥陀経」を参詣者と共にお勤めし、ご講師の南條了瑛師からお盆の意味について法話をお聞きしました。



【仏事Q&A】

Q、お墓にはどのようなときにお参りをすればよいのですか？

命日やお盆を迎えると、「手を合わさずにはいられない」という気持ちになる方も多いことでしょう。また「お盆だから、お墓参りをしなければならぬ」と、お墓にお参りすることを習慣として受けとめられている方もいるかもしれません。お墓にお参りすることで亡くなられた方を偲び、いろいろなことを思い出すこともあるでしょう。そうした中で私がお参りすることが亡くなられた方のためになるなどと考えてはいないでしょうか。

しかし、それはまったく反対で私がお参りをしてあげるのではなく、阿弥陀如来は私を心配し、亡くなられた方を通して「手を合わす身になってくれよ」と、切なる思いで私の手を引っ張り、背中を押してくださっています。仏さまの方から「お念仏しておくれ」とはたらきかけてくださっているからこそ、お参りさせていただくのです。

だれもが初めから手を合わせ、お念仏を称えられたわけではなかったはず。さまざまな導きがあったからこそ、浄土真宗の教えに出会い、お念仏を申す身になったのです。それは私が仏さまのことを思う以上に、仏さまが命日やお盆に限らず、いつも私をみまもり、思いつづけられているということ。命日やお盆だけではなく、いつでもお参りしてください。

またお墓にお参りをした時には、お寺の

本堂にも忘れずにお参りください。

『仏事Q&A 浄土真宗本願寺派』

【法要・法座・行事のご案内】

○婦人会法座

九月七日(土) 一時

・御文章に学ぶ(五帖十二通) 前住職
*時間の変更にご注意ください。

○壮年会法座

九月八日(日) 三時

・七高僧(道綽禅師について) 住職

○子育てサロン(パンダつ子)

九月九日(月) 十一時〜二時

・親子同士の交流の場

☆秋季彼岸会法要

九月二十三日(月・休日) 一時

お勤め…仏説阿弥陀経
讃仏歌…衆会
法話…ケネス田中師

(武蔵野大学名誉教授)

*今年が秋分の日の開催ではありませんので、お気を付けください。

お彼岸とは、お浄土に思いをはせ、阿弥陀さまのお救いのなかに往生された先人を偲び、お念仏の人生のたしかさ、喜びを味わう仏事です。
是非、お参りください。

○親鸞セミナー

九月二十八日(土) 二時

・(仏説無量寿経―四十八願) 前住職

○千葉組仏教壮年会 秋の法話会

十月五日(土) 一時

会場…千葉市民会館(第一、二会議室)
JR千葉駅東口より徒歩七分
講師…金山宣成師(千葉市 無量寺)
「阿弥陀様の御莊嚴」

参加費無料(懇親会別)

*ご参加希望の方は9月9日までに、中原寺にご連絡ください。

※ご寄進 お仏飯米

嶋田稔 様

☆第三十四回文化講演会のお知らせ

日時…十月十九日(土)

開場 一時

開演 一時三十分〜三時三十分

場所…山崎製パン企業年金会館

市川市市川一―三―十四

講師…山極壽一師

(総合地球環境学研究所所長)

講題…「人間の本质と文明の行方」
皆様のご来場をお待ちしています。
先ずご家族、友人等にお声がけください。

【九月の掲示板のことば】

気休めは
その場かぎりの安心
信心は

どんなときにも安心